



# 新羽中だより

令和4年10月3日(月)  
10月号

横浜市立 新羽 中学校  
☎542-1680 FAX 541-1038

## 「実り多き秋に」

校長 荻野 弘

夏休みが明けた頃はセミから秋の虫に鳴き声が変わっていて夏も終わるんだと思う瞬間もありましたが、うだるような暑さは続き、相変わらずの厳しい状況でした。9月の半ばぐらいから朝夕、そして吹く風もさわやかになり、過ごしやすい気候になってきました。もう少しすると長袖の出番がやってきます。テレビも秋から新番組が始まりますが、この季節は何かと変わる時期です。この秋の時期は、



いろいろな秋があります。気候や天気の良い日が多いので、スポーツの秋や芸術の秋などと言われますが、何と言っても“食欲の秋”ですね。秋はお米をはじめ収穫期を迎える食べ物が多くあります。また、暑さで減退していた食欲も回復し、動物の本能として冬に備えて脂肪を増やすために食欲が増してくるようです。旬のものを食べすぎて、脂肪を増やし過ぎないように注意したいものです。また、“読書に秋”とも言います。秋は夏の暑さがひと段落し、湿度も下がり読書をするのに最適な気候と言われています。古代中国、唐の時代の詩人が「灯火親しむべし」（秋は過ごしやすい季節なので、夜には明かりを灯して本を読むのに最適だ）という詩を夏目漱石が「三四郎」という小説の中で取り上げたことで読書の秋が広がったとも言われています。この時期は人が一番集中できる気温になるようです。受験生の皆さんにとってはまさに“学問の秋”ですね。



夏休み明けの集会でもお話をしましたが、次の節目になる冬休みまでは長い期間、学校は続きます。みなさん、“それぞれの秋”を楽しみながら、気分転換を図り、学校生活も“実り多き秋”にしてほしいと思います。

## 新羽の歴史を垣間見て 4

【ホームページ掲載のため氏名はイニシャルにしています】

今回は大倉精神文化研究所理事長のH. S先生よりお送りいただいた1985年に神奈川県立港北高等学校の社会研究部が『新羽町の工業』と題して、“新羽町になぜ工場が多いのか”を研究テーマに立て、高校生が仮説を立てて、実際に調査をしてまとめたレポートの一部を抜粋して、新羽町の工業について学んでみたいと思います。

このレポートは、プロローグとして横浜市の工業の歴史（横浜港開港～高度経済成長期）〔STEP1～7〕、プロローグ2として横浜市の工業地帯を道路との関係〔STEP1～4〕から説明し、第1部では新羽地区工業地帯の成立〔ACT1～7〕、第2部では新羽地区の現況〔ACT8～13〕についてまとめられています。

日本が高度経済成長期に入り、横浜において臨海部の工業団地造成とそこへの大企業進出が進む一方、工場誘致条例による内陸部への大企業の誘致も行われ、新羽地区に工場が急激に増え始めたのもこの頃からのようです。工場は臨海部から徐々に内陸部へ広がっていきませんが「なぜ、臨海部から離れたこの新羽地区なのか？」という疑問に“鶴見川と第3京浜が通っているからでは”という仮説を立て、約200社ある新羽地区の工場からランダムに50社に聞き取り調査を行いました。

聞き取り調査では、鶴見川の水は関係なかったという結果でした。新羽地区の工場のほとんどが機械金属の部品等の工場でした。(機械48%＝自動車部品、セメント抵抗器、VTRオーディオヘッド、建設機械の部品等、金属22%＝金型製造、シャッター、ぜんまい、ボルト、食品8%、化学6%、その他16%) 部品工場のほとんどは多くの水を必要とせず、水を使う場合は水道水を利用しているとのことでした。第3京浜の港北ICの利用については、部品や製品の輸送にはほとんどのものにトラックが使われており、聞き取りを行った工場の80%は港北ICを利用しているという結果でした。港北ICを利用することで日本各地に確実に早く輸送できるようです。しかし、港北ICがあるからここに工場を建てたということではない。との結果でした。

“水と交通の利用”という2つの仮設は崩れてしまいましたが、それでも諦めることなく“真実”を求めて意欲的に活動し、市役所で担当者より聞き取りして、さらに古くから建てられていた工場や地域の人などを訪ねて歩いて聞き取りをすることで、真実を見出すことに近づいたようです。時系列的にまとめると次のようになるようです。

昭和30年頃、新羽地区にはわずかな工場しかありませんでしたが、昭和33年に「準工業地域」に指定されると東京に近く、交通の便もまあまあで、「後背湿地」という農地としても良好な土地ではなかったため地価が安かったので、狭い東京から移転してくる際にこの地区に建てられたようです。昭和35年頃、第三京浜が建設され、港北インターがこの地区の近くにできることが正式に発表されたことで、にわかに活気づいてきたようです。道路建設に伴う地価の上昇で、この地区の地主さんたちは何か良い利用法はないかと考えている時に、“農業だと年によって収入が変わるが、工場に貸すと収入が一定になる”という不動産屋さんの勧めがあり、貸し工場がかなりの勢いで増加することになり、今に至っている。ということが「新羽地区になぜ工場が多い？」という答えになりました。

私は毎日、北新横浜駅から学校まで徒歩で通勤していますが、新羽中学校に異動になった頃は、南北東西どの道を通ってもほとんどが工場や倉庫ばかりでめずらしい街の様子を不思議に思っていました。今回のレポートでその理由を知ることができて興味深かったと思っていますし、細かく調べられ、しっかりとまとめられており、大変、素晴らしいレポートにとっても感激しました。今回、掲載させていただいたのは、膨大なレポートのごく一部ですが、社会研究部の生徒さんたちの“探求心と行動力”が伝わってきます。このレポートの冒頭の「発行に寄せて」の一部を抜粋させていただきます。「～(前略) 思えば昨年の11月に今まで誰も調べたことのないものをやろうという意欲とともに始めたこの研究であるが、いざ工場を回り始めると冬の日没の早さに加えて、寒風の吹く鶴見川の土手沿いを手袋はめて自転車で突っ走るといふ予想外のつらさに部員一同舌を巻いたものです。だからこそ50社の工場を回り終えた時の皆の歓喜あふれる顔は忘れられません。(後略)～」

私は中学校の教員として、“生徒のみなさんが自分の住む街に関心を持ち、学び、そして自分の街を誇りに思い、未来を考え、支える人を育てていくこと”が使命だと思っています。きっとこの街に住む多くの生徒のみなさんが「なぜ、工場が多いのだろう？」と感じていたことでしょう。このレポートを読むことでこの地域の歴史を知り、親しみを感じてくれたら幸いです。

## **新羽丘陵公園の草刈りに参加しました。**

9月4日(日)に8時より新羽丘陵公園の9月の草刈りがあり、校長、副校長と3年生5名がボランティアとして参加してくれました。役割としては、公園愛護会の方々が草刈

り機で刈った斜面の雑草を集めて木の根元や斜面の下の方に集めるという作業でした。草を集めているとその間から草と同じような緑色をしたバッタがたくさん飛び出し自然を感じました。当日は好天に恵まれ、2時間程度の作業でしたが、汗が噴き出すような感じでした。小学校の校長、副校長先生始め、数人の先生方と児童、保護者の方々も参加され、公園愛護会の方々を含めたくさんの参加者で賑やかに草刈りをしました。参加してくれた3年生のボランティアのみなさん、ありがとうございました。



## 9月28日に授業参観・学級懇談会を行いました。

コロナ禍の前は、毎月28日を“新羽の日”として、保護者、地域の皆様に学校の様子をご覧いただく機会として設定しておりましたが、コロナ禍により休止しておりました。本年は4月の授業参観に続き、2回目となりました。各学年ともたくさんの保護者の方々にご来校いただき、生徒たちの様子をご覧いただくとともに、クラスごとの学級懇談会にもご参加いただきました。お忙しいなか、ありがとうございました。

まだ、安心できる状況ではありませんので、毎月の設定は難しいかも知れません。状況を見ながら実施できればと思います。



## 中学校給食 10月の一押しメニュー

- 10月7日 つくねの照り焼き、栗五目御飯の具、小松菜のおひたし、月見団子  
“十三夜” 水菜とえのきだけのすまし汁
- 10月17日 鶏肉とさつま芋のオイスター炒め、大根ときゅうりの即席漬け  
“秋の味覚” 揚げぎょうさ、小松菜とこんにゃくのピリ辛いため、中華スープ
- 10月21日 かれの野菜玉子あんかけ、ひじきと大豆の煮物、リンゴの甘煮  
“新メニュー” 小松菜とえのきたけのおひたし、キャベツのみそ汁

